

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172902561		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム あげぼのIV		
所在地	旭川市曙3条6丁目1番14号 (電話) 0166-21-3177		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	平成19年12月4日

## 【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤16人, 非常勤 0人, 常勤換算11.0人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	～全 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 16,500円
敷金	有 ( 円)	無	暖房費(10～4月) 6,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	450 円	昼食 300 円
	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		円

### (4) 利用者の概要 (11月13日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.1 歳	最低 70 歳	最高 94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	忠和クリニック、くにもと病院、メイプル病院、小池歯科クリニック
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、高齢者の介護を通して地域貢献を考え旭川市内の4箇所に設立されているグループホームの一つで、利便性のよい静かな住宅街に建てられています。広いリビングや畳敷きの小上りなど、余裕のある設計の中にも、心身状況に配慮され、ゆったり感と高級感のある空間が提供されています。母体が医療機関で、医療のバックアップ体制が整い、介護度の高い方も積極的に受け入れ、家族が安心して入居者を任せられるホームとなっています。職員は利用者の楽しみやできること、わかる力の発見に日夜努力されています。管理者と職員の関係作りの良さが感じられ、人間関係も良好で、親しみやすく温かい雰囲気となっています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の課題である研修に関しては、系列のホームと合同で教育委員会を設置し、スキルアップ向上のためレベルに応じた研修を受講しています。そのほかの課題についても全体のカンファレンスで話し合い、本部とも協議しながら積極的な改善への取り組みが行なわれています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットごとに全職員で自己評価に取り組み、内容を検討してまとめています。全職員が評価の意義を理解しており、日々のケアサービスを振り返りながら質の向上につなげるよう取り組んでいます。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度9月に1回目を開催し、民生委員、利用者、利用者家族、管理者、グループホーム職員、医療相談員、本部職員の参加で行なわれています。ホームの概要や運営状況、スライド上映、今後の行事予定などが報告され、民生委員、利用者家族、医療相談員から意見、提案が交わされています。利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りについて、法人本部と連携を図りながら検討しています。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日頃から家族との交流を図り、気軽に意見、要望を話せるような雰囲気作りに努めています。また、家族から意見や要望が出た際には、日々のカンファレンスで話し合いケアに反映しています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の方が花を持ってきてくれるなど、自然な形で地域の方々との顔なじみの関係作りが行なわれていますが、町内会への理解が得られず町内会への加入や地域活動の参加による連携は図られていません。地域密着型サービスとして、地域の人々への理解と協力は不可欠であるため、ホームの存在や役割についてわかりやすく伝える具体的な取り組みを期待します。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に職員全員で考えた理念が、ホームの見やすいところに明示し、理念の達成に向けて日夜努力されているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しや職員間での話し合いが行なわれていない。	○	地域密着型サービスとしての意義を全職員で確認し、ホームと地域の関係性を深めるようなホーム独自の理念を作り上げることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念が掲示され、また職員証にも明示されており、常に理念を念頭においた日々のケアサービスに取り組まれている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は、地域との付き合いは大切と十分に理解し、利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りについて、法人本部と連携を図りながら検討しているが、町内会への理解が得られず町内会への加入や地域活動の参加による連携は図られていない。	○	利用者が地域の一員として暮らし続けるためには、地域の理解と協力は不可欠である。ホームの存在や役割について地域や町内会へわかりやすく伝える具体的な取り組みを行ない、相互交流が図られることを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善課題は全職員で話し合いがもたれ、改善計画書を作成し改善に向け積極的に取り組んでいる。また、今回の自己評価も全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しを行ない、日々のケアに活かせるよう話し合いが持たれている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成19年9月に第1回目の開催が行なわれ、ホームの概要や運営状況、スライド上映（ホーム内の日常の様子）、今後の行事予定などが報告され、民生委員や家族から意見、提案などが交わされている。	○	今回のサービス評価の結果も議題に含め参加者からの意見、要望を聞き、サービス向上に活かされるよう期待する。また、利用者家族に会議参加の積極的な呼び掛けと地域住民の幅広い立場の人が参加されることが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会や会議に参加し、ホームとしての係わりや疑問点についての相談は行なっているが、行政との連携は十分とはいえない。	○	運営や現場の実情などを積極的に伝えたり、市から情報を提供してもらうなど、市の担当者と意見交換を頻繁に行ない、協力関係を築かれることを期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヵ月毎に「かがやき」を発行し、日々の様子や行事の写真、担当者の手紙を添え、利用者の心身状況を家族に知らせている。金銭出納簿は毎月家族の来訪時に明細を明らかにし、家族の了解を得ている。職員の異動などについては報告されていない。	○	家族の安心を確保し、ホームとの信頼や協力関係を築くためには、家族とのきめ細かいやりとり不可欠であり、ホームとしても家族にもっと状況を伝えたいと感じている。家族が知りたい点を考慮しながら、積極的な情報提供を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見、要望を話せるような雰囲気作りに努めている。また、意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。玄関入口には「意見箱」が設置されているが投書はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士の十分な引き継ぎ、利用者へ説明、新任者の紹介を利用者一人ひとりの状況に合わせて説明方法を工夫するなど、利用者の精神的負担の軽減に努めている。しかし、ゆとりあるケアについては人手不足が感じられる。	○	利用者の安心とゆとりある生活を支え、利用者、家族、職員の不安緩和や事故防止の観点から、人員増員が望まれる。

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は人材育成の重要性を認識しており、研修参加費用等を事業所負担とし、職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に交替で参加している。また、同系列のホーム間では教育委員会の発足もあり計画的に内部研修や報告会が行なえるよう検討されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の事業所との交流は盛んに行なわれているが、ほかのグループホームとの直接的な交流は行なわれていない。	○	ホーム全体で話し合い、重要性を把握したうえで同一法人のグループホームだけでなくほかの同業者との交流を図る機会を設けることが望まる。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には利用者、家族等と十分に面談を行ない、見学して頂いた後に入居している。入居始めの期間は本人がすぐにホームに慣れない場合は、家族に來所して頂くなど、信頼関係を築きながら、利用者及び家族が安心、納得できるよう適切なサービス開始の調整がされている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの得意なことを見極め、声掛けを行ない、場面作りの支援が行なわれている。また、利用者の経験から料理の味付け、調理方法、野菜作り、生活の知恵など利用者から教えてもらうこともあり、ともに支え合う関係作りが構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに担当職員を決め、利用者の状態、気になることなどを細部にわたり把握し毎朝のカンファレンスで共有されている。また、家族から情報収集を行ない、利用者本位の生活となるよう検討し、日々のケアに活かしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートを活用し、状況把握に職員が全員で係わり、課題の把握に努め日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。家族の要望を取り入れ、職員が意見を出し合いながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月に1度の見直しを行ない、利用者の状態変化や必要に応じて本人、家族と話し合い、医療機関とも相談しながら現状に即した見直しを行なっている。作成された計画書は家族に確認後、同意をもらっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の送迎や外出時の付き添いなど、柔軟な支援が実践されている。また、医療連携加算の指定を受け、24時間安心できる体制を整えている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する掛り付け医での受診支援を行なっている。看護師が常勤しており、利用者は健康面についても気軽に相談することができる。また医療連携により看護師の健康管理も行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係医療機関と十分に連携を行ない、終末期対応についての整備が行なわれている。重要事項説明書に重度化や終末期に向けた指針や同意書が整備され、家族と方針が共有できる体制になっている。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの性格を把握し、入室時の声掛けや自尊心を傷つけないようさりげない対応に心掛けている。しかし、面会簿の記入や、広報の掲載写真の同意が得られていない。	○	広報の掲載写真使用目的の説明や、公開の同意が得られるように、本人や家族に了解を求めることが望まれる。また、ほかの人に名前や住所をみられないように、面会名簿の記入を工夫されることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に対するケアサービスはホーム側の都合に合わせるのではなく、利用者の生活歴や体調やペースを大切に、その人らしい生活を送れるよう支援されている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際にはスタッフが同席して同じ食事を取りながら和やかに食事ができるよう支援されている。後片付けも利用者の力に応じて一緒に行なわれている。しかし、一つのユニットでは外部発注での献立と食材購入となっており、一人ひとりの希望や好みが十分に聞けていない。	○	行事のときは希望を取り入れたメニューとなっているが、献立にマンネリ化が見られる。利用者と一緒に買う楽しみ、選ぶ楽しみ、作る楽しみ、食べる楽しみなど「食」を通じた様々な取り組みを活かすためにも見直しの検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴は一応定められているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、利用者の状態によりシャワー浴や足浴も行なわれている。また、夜間帯の入浴も可能で入浴を希望する利用者もお対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることや趣味を活かせるように支援しており、お茶碗拭き、植物への水やりなど生活歴を活かした役割や習慣、外出やお化粧などの楽しみごとの実施によって日常の暮らしに張り合いや喜びを見出せるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、ドライブ、通院への付き添いなど、利用者一人ひとりの希望に応じた対応が行なわれている。また、ホームに隣接された畑には水やりや収穫時に一緒に出掛け、成長の楽しみを持てるように支援している。	○	介護度の高い利用者も短時間ではあるが戸外に出る機会を設けている。しかし、家族は外出の機会が少ないと感じているため、家族の声に耳を傾けながら利用者が戸外で気持ちよく過ごせるような取り組みを期待する。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の中には、さりげない声掛けや見守りが行なわれている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルの整備は行なわれている。しかし、消防を交えての避難訓練や町内会や地域住民への働き掛けは行なわれておらず、協力体制を築くまでには至っていない。	○	利用者の安全をより確実のものとするためにも、地域住民の参加、協力を得ながらの避難訓練の実施や災害時に備えた物品の準備をすることが望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量、食事量など個別記録され職員が情報を共有している。また、利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じて調理方法も工夫がされている。利用者の中には 介護度の高いの方も居住され、不安なく生活されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングには、ソファ、椅子、マッサージチェアなどが置かれ、畳敷きの小上がりがあり、十分な居場所が確保されており、入居者は思い思いの場所でゆったりと寛いでいる。気になるにおいもなく、音、光なども適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の使い慣れた馴染みのベッドや家具、装飾品、利用者によっては仏壇を持ち込み、家庭の延長的雰囲気の中で安心して暮らせる場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。